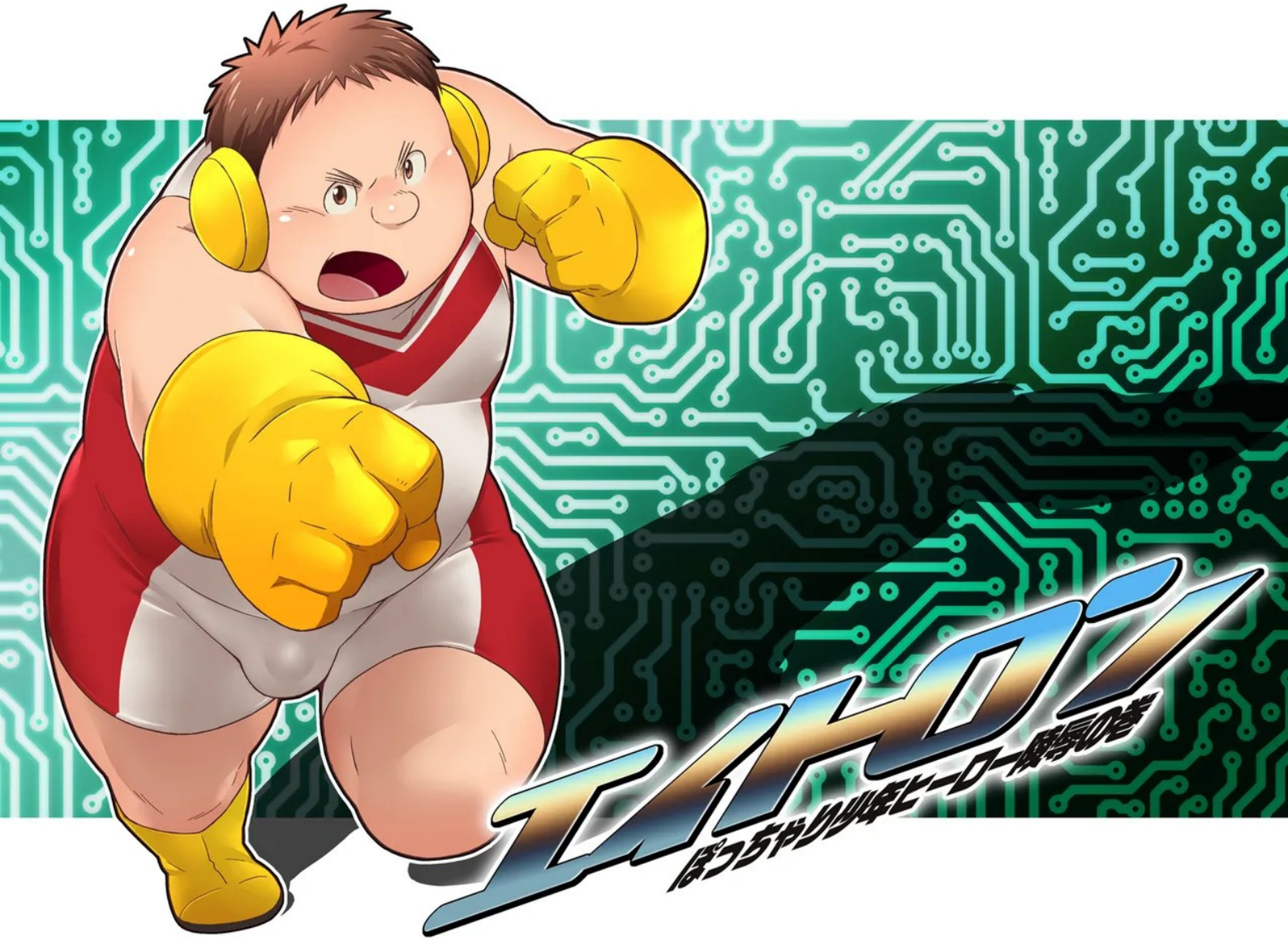

エイトマン
ぽっちゃり少年ヒーロー爆誕の巻

悪の組織というのも、何かと苦労が絶えない。
特に資金繰りにはいつも頭を悩まされている。

しかしバイヤーのニーズに応じて、最近開発した
新作麻薬「ハピネス」が好評で、我々に多大な利益を
もたらしてくれている。

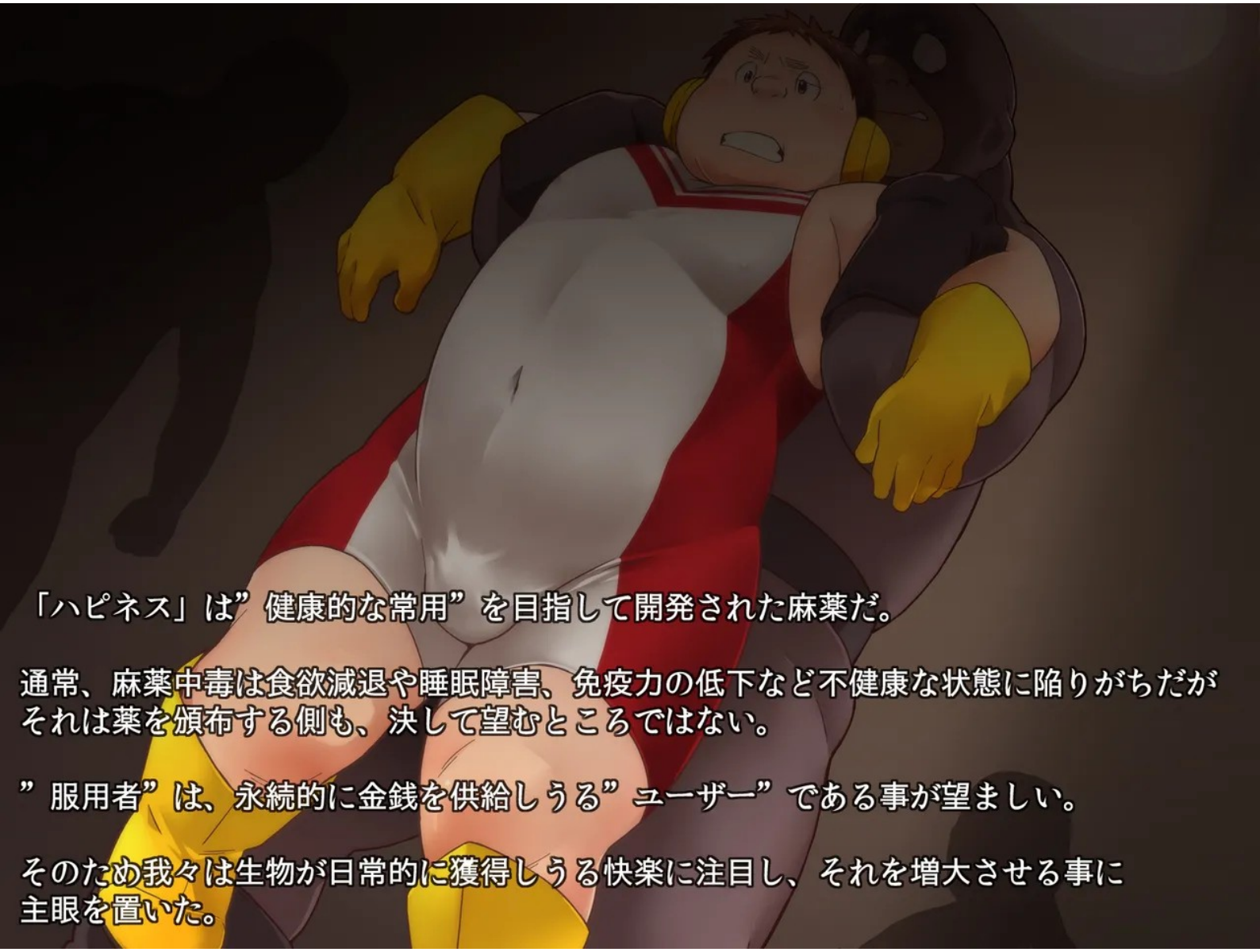
反面、流通量が増えれば、当局はもちろん
面倒な連中にも目をつけられることになる。

「ハピネス」の製造工場に現れたのは一人の少年ヒーロー、エイトロン。
幼くしてヒーローになった彼は、すでに5年の経歴を持つベテランヒーローだ。
当初は最年少ヒーローとして脚光を集めたが、少年ヒーローとしてはトウが立ち
いまではすっかり注目を集めなくなっていた。
地道にヒーロー活動は続けているらしく、しばしば我々の前にも現れては
その活動を妨害していく。

彼の力の源は「超能力」。
とはいっても、サイコキネシスやテレポートといった
特異な能力ではなく、超能力によって増幅した身体能力で
我々のような悪の組織と対峙してきた。

戦闘員たちを相手に大立ち回りをする彼の隙を突いて
私は彼に向けて一発の銃弾を放った。
希釈前の「ハピネス」を装填した特殊弾頭が彼に命中すると
彼の体からは、みるみる力が失われていき、やがてその膝は折れ
ついに地に伏した。

戦闘員が床で痙攣している彼を抱え起こした。
高濃度の「ハピネス」を投与された事によって、彼の体はすっかり
脱力してしまっている。
しかしこの薬の本領が発揮されるのは、むしろこれからだ。


「ハピネス」は”健康的な常用”を目指して開発された麻薬だ。
通常、麻薬中毒は食欲減退や睡眠障害、免疫力の低下など不健康な状態に陥りがちだが
それは薬を頒布する側も、決して望むところではない。
”服用者”は、永続的に金銭を供給しうる”ユーザー”である事が望ましい。
そのため我々は生物が日常的に獲得しうる快楽に注目し、それを増大させる事に
主眼を置いた。

結果、「ハピネス」は、投薬によって”高度な性的快楽”を与えられる麻薬となった。

はぁ
ぁぁ
お腹・・・あつい
はぁ
だ・・・ダメ！なにか・・・、
おち・・・ん、あああああぁぁぁあっ
きゅうううっ
や
はぁ
はぁ
あ
はぁ

ひいっ
んっ、
ぐうう
っ!?
ドン!
ビュルルッ

我々は、「ハピネス」による射精で完全に放心してしまったエイトロンを拘束した。

普段ならその怪力であっさりと引きちぎられるであろう脆弱な拘束ではあったが、
立つ事もままならない今の彼にとってはそれでも充分過ぎた。

拘束して二時間。

いまだその手に施された簡易な拘束を引きちぎるには至っていないものの、
放心状態からは回復し、我々に喚き散らす程度の力は取り戻したようだ。

どうやら”脅し”か”交渉”でもしているつもりのようだが
その言葉は稚拙で、まったく理に適っていない。

どうやら薬の効果は落ち着いているようだが、体の震え、発汗、
精神の不安定と、妙に落ち着きのない様子が見て取れる。

禁断症状にしては早すぎるが・・・

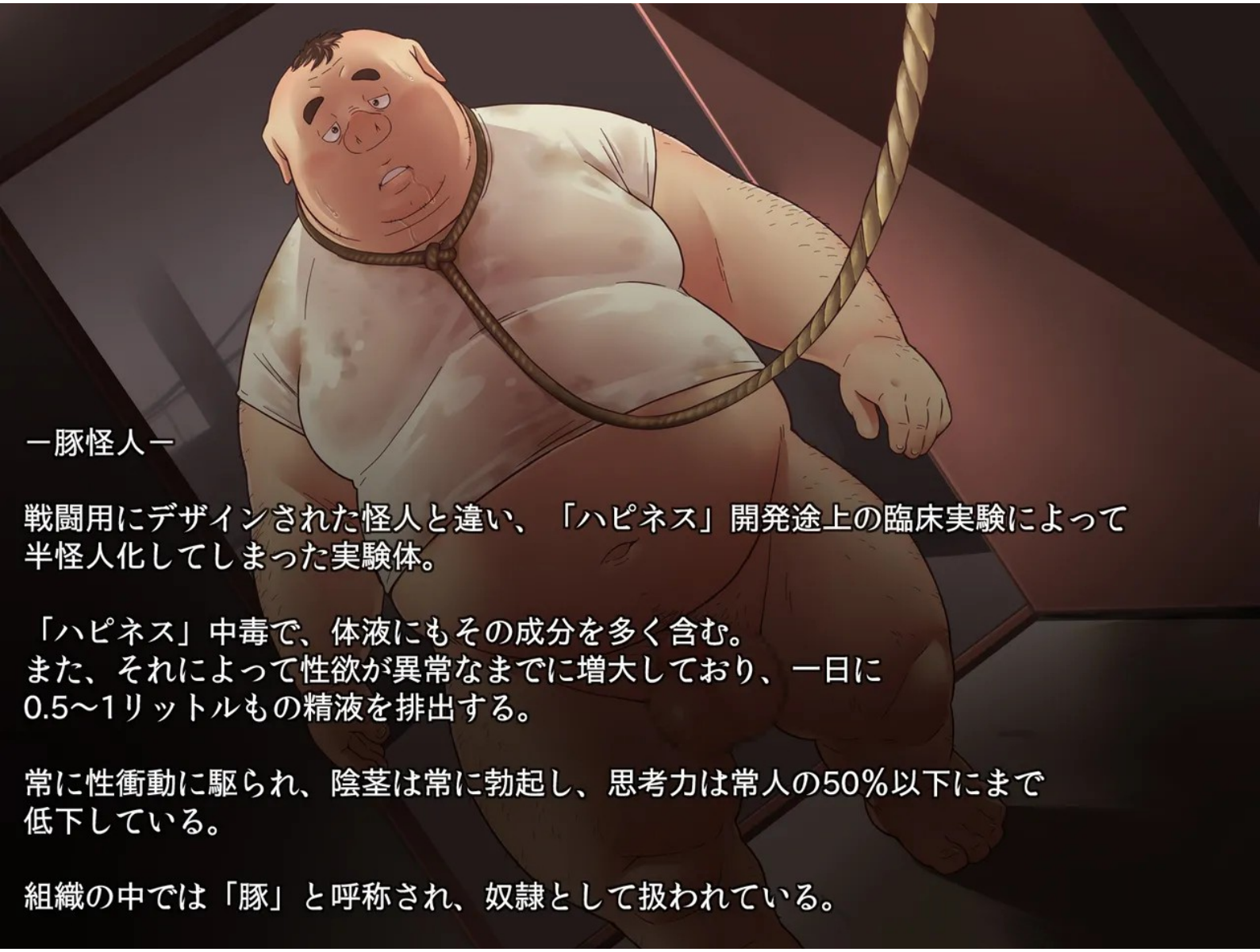
彼の異常について、ごくごく簡単な推測に至った私は
作業中の戦闘員たちを呼び集めた。

戦闘員たちの視線に晒されると、彼の焦りはさらに強まった。

太ももをすり寄せ、必死で抑えていた股間から、薄黄色のシミが広がり
内股をつたって、あっという間に床に水溜りを作った。

周りに集まっていた戦闘員たちは少々驚いた様子だったが、
やがて彼を笑い、侮蔑の言葉を浴びせかけた。

ヒーローの失禁という醜態に、興が乗った一人の戦闘員が
”豚”を連れてきた。



ー豚怪人ー

戦闘用にデザインされた怪人と違い、「ハピネス」開発途上の臨床実験によって
半怪人化してしまった実験体。

「ハピネス」中毒で、体液にもその成分を多く含む。
また、それによって性欲が異常なまでに増大しており、一日に
0.5〜1リットルもの精液を排出する。

常に性衝動に駆られ、陰茎は常に勃起し、思考力は常人の50％以下にまで
低下している。

組織の中では「豚」と呼称され、奴隷として扱われている。

はぁ
はぁ
あぅ
はぁ
はぁ
はぁ
汚れたスーツを剥ぎ取られたエイトロンの背後にあてがうと、
”豚”は少年の柔肌に興奮しているのか、息を荒げている。
今にも襲い出しそうな勢いだが、奴隷として調教されているため
指示があるまでは”おあずけ”状態だ。

許可が出ると、”豚”は腰を前に突き出し、その勃ちっぱなしの陰茎を
エイトロンの秘穴に押しあてた。

常に湧き出しているカウパーで濡れそぼり、勃起しているとはいえ
さして大きくもない”豚”の陰茎は、案外スムーズに
エイトロンの肛門内に滑り込んだ。

普段愚鈍な”豚”が一心不乱に腰を前後させる様が実に滑稽だ。

豚は既に何回か射精している筈だが、その腰が止まる気配はまるで無い。
肛門からは陰茎が抜き差しされるたびに、攪拌された精液が溢れ出ては
不快な音を奏でている。

エイトロンの方は、といえば、豚の分泌するカウパーや精液に含まれる
「ハピネス」の成分を直腸内の粘膜から吸収しているらしく、
尻を犯されているという屈辱的な状況にもかかわらず、押し広げられた
肛門の痛みよりも、薬のもたらす快楽に酔い痴れ始めていた。

んっ！はぁっ…
やつ、あああああっ
ぶぷぅつ…
ぶひぃぃぃぃぃぃっ
ブプッ
ブプッ
ブボッ

その後、薬漬けとなったエイトロンには超能力が発揮出来ない事が確認され
現在、実験体として”豚”と共に生活させている。
重度の中毒者となった互いの体液から、ハピネスの成分を交換吸収する事により
どのくらいの期間、薬を不要とするかなど、取れるデータは今後、我々にとって
実に有益なものとなるだろう。
今も彼は、文字通り”豚小屋”のような”豚”の居室で、まるで
オナホールのような扱いを受けている。

しかし彼らは幸せである。
煩雑な社会生活に振り回される事なく、実験体として彼らの健康と生命は保障され
食事と睡眠以外の時間は互いの体液を酌み交わす事で、常に快楽を得るという
シンプルな生活。
そしてこれは開発者の欲目かもしれないが、この二体のまぐわう様子は、
お互いに快楽を授受し合う、さながら恋人同士の様に思えてくるのだ。
END

あとがき（オマケ？）

このたびは、「エイトロン　ぽっちゃり少年ヒーロー陵辱の巻」を
お手に取っていただき誠にありがとうございます。

懲りずにヒーローものなんて、また描いてみました。
去年（2013）の夏のブーケットで「ぽっちゃりヒーロー」ものの
素敵な本をゲットしまして、すっかり”触発”されてしまいました。
（まったくパクリ切れてないのでセーフ！）

以前ヒーローものに挑戦した時は、せっかくのタイツなのに
あんまりタイツっぽさがだせなくて、のちのち見て何じゃコリャ？と
思ったので、反省の意味とか色々こめて本作にあたりました。

肌の塗り方とかもちょこちょこ変えてたら、えらい時間ばっかり
かかってしまったり、そんなに変化してないのに差分が
全然楽じゃなかったり・・・。

ともあれ、少しでも喜んでいただければ･･･の前に、皆さんのお手元に
ちゃんと届けばいいなぁ･･･（現在、2014/08/16 4：13･･･）

ネーミング

最初は「少年ジェット」とか「光速エスパー」みたいな、
ちょっと古臭いイメージで「サンダーボーイ」とか「流星キッド」
とかベタっぽいのを考えていたんですが、８月８日がデブの日で、
なんでも「８」のフォルムがデブを想起させるとかなんとか、
っていうのをTVで見て「エイトロン」にしちゃいました。
（ガンバロンっぽいかな？とも）
「エイトロン」は既にある名前なので、どうかな？とも
思ったんですが、ためしにロゴ作ってみたら、割といい感じに
できたので、もうこれでいいかな？と。
本作は「ＤＴエイトロン」とはまったく関係ございません。

没デザイン

デザインについても、四苦八苦。
「サンダーボーイ」のイメージで青地に黄色いイナズマラインとか、
王道ヒーロー的にウルトラマンを意識してみたり。

ムクッ

きゅうううっ

ドン!
ビクンビクンッ

じゃっぷ

じょおおおぉ…

ズニュ...

ズリュ…
ズリュ…

ジュプッ
ジュプッ

ブプッ
ブピッ
ブピッ